

出席者	住民	24人	市 大城市長・宮岡水産港湾課長 政策推進課 此上係長・繁森主事
担当課	事項	要望内容等	かこむ会での回答
※事前質疑なし			
総務課	災害対策について	南海トラフによる地震・津波や大雨が降った時の土砂崩れなど、大島での災害対策はどのように考えているか。	<p>専門家と協議しながら、大島の地形等を考慮した上で、どうするか考えていく。</p> <p>【補足】 有事の際は、大島産業振興センターを有効に活用する。 大島産業振興センターは耐震基準を満たした建物であり、建築時の立面図では、3階フロアは、地盤面から7.34mとなっている。建物は津波災害警戒区域であるが、付近の最大基準水位は、4.3mとなっているため、計算上は建物3階以上に津波が来ることはない。 土砂災害においても、建物構造が鉄筋コンクリート(RC)造であるため、3階以上の階に避難することが望ましい。 広島県での土砂災害や、静岡県熱海市の土石流においても、RC造の建物は流されていない。 建物は、土砂災害特別警戒区域に指定されていることから、原子力防護施設となっている大島産業振興センターの対応を愛媛県と協議する。</p>
水産港湾課	一次産業について	大島の水産業等の今後について、どのように考えているか。	<p>地元の水産業を支えていただいている漁師の方々の声を聞き、できることがあれば支援していく。</p> <p>【補足】 離島漁業再生支援事業(1期~4期、平成17年度~令和6年度)が節目を迎え、5期(令和7年度~)を継続していただくこととなった。大島の水産業の抱える課題は、高齢化・後継者不足や漁獲変動などに直面していることを認識しており、この事業を中心に、大島漁業集落の方々や関係機関と連携しながら必要な取り組みを進めていきたい。</p>
政策推進課	人口減少対策について	加速度的に進む大島の人口減少対策について、どのように考えているか。	<p>まず市の中心部に人を呼び込み、そこから大島にも足を伸ばしてもらおう。みなとや四国電力跡地の雰囲気が変わってきた。来た人がもう一足伸ばして大島の良さを知ってもらい、住んでみたいと思う人を少しでも増やしていきたい。</p>
総務課	原発事故対策について	伊方原発で大きな事故が起きた場合の放射能被害が不安である。どのように考えているか。	<p>大島産業振興センター4階に放射能を遮蔽する施設を設置しているので、活用してほしい。</p> <p>【補足】 大島産業振興センターは、放射線防護施設として陽圧化工事を行っている。伊方発電所で万が一の大規模災害が発生し、放射性物質が放出された場合は、大島産業振興センターの屋上に設置してあるモニタリングポスト(環境中の放射線量を連続かつリアルタイムで測定する装置)の数値によって、屋内退避や一時移転が決定する。 まずは、鉄筋コンクリート造であり、放射線防護施設である4階部分に屋内退避をしてほしい。 その後、モニタリングポストの数値が上昇してきた場合は、島外避難を愛媛県と協力し実施する。</p>

担当課	事項	要望内容等	かこむ会での回答
政策推進課	大島の活性化と観光について	大島の魅力を活かした活性化策、海の幸を活かしたイベントの計画はあるか。また、大島への観光客数の推移や認知度の変化はどうか。	地域おこし協力隊も何名か来てもらった。市も協議に入るので、島内での空き家活用など、受け入れ体制を一緒に考えてほしい。観光客数(船を利用した人数)は、令和5年度5,900人、令和6年度5,500人程度で推移している。 【補足】 大島交流館では、9月28日に「大島テラス祭り」を開催した。本イベントでは、大島一周チャーター船ツアーやアワビの稚貝放流、新鮮な海の幸を使ったバーベキューなどを通じ、大島の魅力を広くPRした。今後も大島の魅力を活かしたイベントを企画していく。
水産港湾課	すじ青のりの作業場について	現在休止している「すじ青のり」の作業場を、ひじきの乾燥などに使えるよう、早く撤去・整備してほしい。	事業者の経営状況を確認し、事業を継続しないようであれば、ご要望があった施設の整備等について協議する。 【補足】 天然のアオノリの収穫量が回復したことで、陸上養殖と併せ供給過多となっているため、再開の見通しが立っていない状況とのことである。現状の設備はまだ移動させることができないためひじきのシーズンにおいては、水槽の上を使いひじきを乾燥させることは問題ないと事業者から回答を得ている。
生活環境課	清島丸の安全対策について	病気やけがの場合、大島から清島丸で市内の病院へ連れていく。夜間の航行は危険なため、安全対策としてGPSを設置してほしい。	かこむ会のなかで、GPS設置済みを確認した。
保健センター	急患搬送の支援について	急患搬送はボランティアで行っており負担が大きい。何らかの予算化を検討できないか。	命に関わる大島ならではの案件として、どのような支援ができるか検討する。 【補足】 現在本市では、急患搬送時に清島丸を使用した場合は、別途委託料を支払っている。また、漁船等を使用した場合は、特船借りに係る費用に対し、1件あたり3万円を上限に補助金を交付している。
水産港湾課	サザエの資源回復について	今年はサザエが不漁だと聞く。アワビのように、サザエの稚貝放流も検討してほしい。	離島漁業の助成事業の中で、サザエの放流や藻場保全(ガンガゼ駆除)などを組み合わせた、収入向上に繋がる事業を検討したい。 【補足】 近年大島では交付金事業等で、県内や八幡浜漁協で種苗生産をしている魚種(キジハタ・マハタ・クロアワビ)の放流を実施してきた。サザエは県内で種苗生産していないため、種苗生産しているところを探すところからはじめ、実施できるかどうか検証する必要がある。魚種選定については引き続き大島漁業集落の方たちの意向を踏まえ、県等の専門機関と相談しながら実施していきたい。
	テレビ番組の取材報告について	南海放送「もぎたてテレビ」の取材で、自身のみかん山や島内を案内した。	市のPRに繋がることであり、ありがたい。市としても番組の動向は把握している。
水産港湾課	スーパーでの販売促進について	松山のスーパーで大島産ポテトチップスが好評だった。	販売促進にはいつでも協力する。市としても、様々な機会に八幡浜産品のPRに努めている。